

## M1900 ボリューム調節キット（義肢用）について

Q1 M1900 ボリューム調節キット（義肢用）を推奨する補装具種別は？

A. 本システムは、樹脂注型による固定が強度確保のために必須となるため、樹脂注型にて製作される義足ソケットへの適用を推奨する。樹脂注型にて製作される場合に限り、義手・装具に転用が可能である。

Q2 M1900 ボリューム調節キット（義肢用）の使用が推奨されるケースはどのような症例ですか？

A. 義足ソケットへの使用を推奨しており、義足着脱の簡便化と確かな締め付けと高い適合が得られる。ソケットシステムへの使用例は下図 1.を参照下さい。  
以下に挙げる症例の方や環境、場面において有効性が高いと考えている。

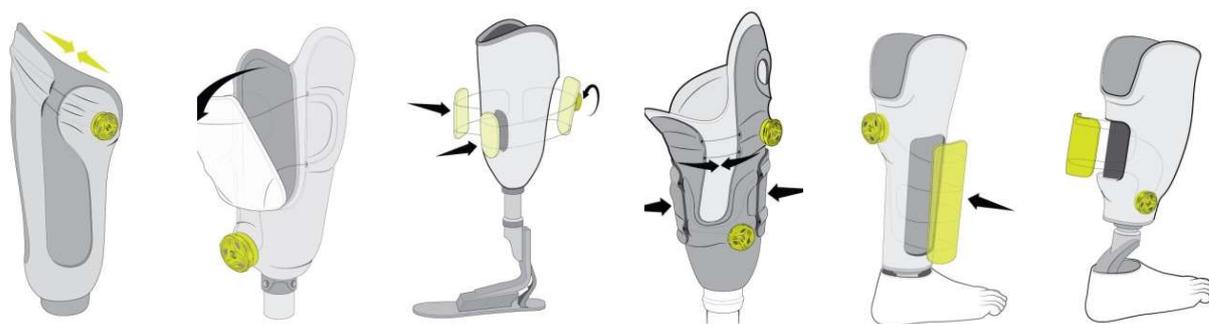


図 1 .M1900 使用例

1. 断端のボリューム変化が見られるケース

- ・断端ボリュームの日内変動が大きく、一日を通してソケットの適合を維持することが困難なケース。
- ・体調変化や、月経、季節による体重の増減等が見込まれ、断端ボリュームの変化によりソケットの継続的な装着が困難なケース。
- ・小さなボリューム変化ではあるが、義足の不安定感や断端の不快感により、安心して使用するために調節を頻繁に繰り返し行う必要があるケース。

2. 長時間の座位をとる状況が想定されるケース

在宅での生活様式や、就業・就学環境において、長時間座位をとることによるむくみ（浮腫）や、膝の屈曲角度の維持によるソケット内部や上縁での圧迫感により義足の長時間の装着が困難なケース。

3. 着衣の上からソケットのボリューム調節の有効性が見込まれるケース

就業・就学中や公共交通機関による通勤・通学中において、従来の断端袋による調節の

ため、ソケットの脱着を要するケース。本システムの使用により、時間や場所に制限されず、着衣の上からの調節が可能である。

4. 断端遠位が近位に対してボリュームが大きくソケットへの挿入が困難なケース  
断端遠位の断端ボリュームが近位のボリュームに対して大きく、ソケットへの断端の挿入が難しく、本システムを用いて近位を開放することで義足の装着が可能となるケース。
5. 上肢の機能制限があるケース  
上肢の機能制限（上肢の筋力低下、器用さの低下、上肢・手指の欠損・変形等）により、ベルト等による調節が困難なケース。尚、このケースにおいては本機構のダイヤルを締め付ける作業や、緩める作業が適切に行えるか、処方前の確認が必要である。

**Q3 M1900** ボリューム調節キット（義肢用）を使用したソケットはどのように取り扱えばよいか？

**A. M1900** ボリューム調節キットは、ダイヤル内に搭載されている倍速ギアにより、強い力でケーブル（紐）が引き込める。従来のソケットではケーブルの走路に大きな負荷がかかりソケット破損の恐れがあるため、十分な強度を提供するためカーボンストッキネット等による補強が必要である。

**Q4 M1900** ボリューム調節キット（義肢用）を使用したソケットのメンテナンスは？

**A.** 本システムを使用するソケットは、1年に1回程度は不適合の有無に関わらず、ボリューム調節に用いられているケーブル（パネル調節に用いられる紐）に摩耗が起きていないかの確認を推奨する。

**Q5 M1900** ボリューム調節キット（義肢用）を用いた際の加圧部のクッション材の種類は？

**A.** ソケット内の部分的な加圧・周径調節を目的とする場合、ソケットの形状変化に追随し、加圧部の圧を分散するため、柔らかいインナー材料の使用を推奨する。二重ソケットに用いられる軟性のインナーソケット材料、外装布付シリコンライナー、又はPEライト等の軟性発泡樹脂材料を使用し、ソケット内面での肌の直接の圧迫を避ける必要がある。